



## 教員 セミナー

## 株式会社 障がい者つくし更生会

### 「生徒の就労意欲を高めるためには？」

「どうやったらやる気がでるのか」また「何ができるのか」。特別支援学校高等部生徒の実習を多く受け入れ、生徒・保護者・教員の相談等にに応じているお立場から「生徒の就労意欲を高めるためには？」というテーマで、株式会社障がい者つくし更生会 専務取締役 那波 和夫様にお話をいただきました。

株式会社障がい者つくし更生会は、障がい者雇用の場を作り、その中で一人ひとりが社会人として自立していくことを目的として設立され、春日市・大野城市の不燃性一般廃棄物処理施設の運転管理および、最終処分場の維持管理を行っています。

セミナーではまず初めに、つくし更生会の事業等についてお話をいただきました。つくし更生会は社員36名中31名が障がいのある方で、障がい者雇用率86.1%の企業です。「障がいがあっても、物心両面の環境を整えば、一人前の仕事ができる。障がい者と健常者は一体となれる。それを証明し、伝えること」を使命とし、その使命を果たす、また、ビジネスとして成立させるための仕組み作りについてご説明いただきました。

#### ☆生徒に経験・実感させていますか

- ・分かり易い 話しやすい 大丈夫 安心感
- ・怒られる心配、恐怖はない（責任感、緊張感が必要）
- ・できるようになりたい やってみたい、知りたい
- ・できることが増えた 多くを知ることができた
- ・選択肢が広がった
- ・自分で意思で選択し行動し、その結果を受け止める
- ・困った時は相談できた 一緒に笑えた
  
- ・納得できた 意味が分かった
- ・褒められた 認められた 期待された 必要とされた
- ・喜怒哀楽
- ・学校の勉強、体験は、自分の将来に役に立つ

次に本日のテーマ「生徒の就労意欲を高めるためには？」についてお話をいただきました。

那波様はまず、「生徒に経験・実感させていますか？」と（左表）を示され、つくし更生会ではこれらのこと（左表内容）を社員が仕事をする中で、経験・実感できるように意識しているそうです。そのことが社員の成長のしやすさにつながるのではないかとお話をされました。

またつくし更生会では、使命を社員全員で共有し、その実現に向けて社員全員で取り組むことが、社員の成長につな

がっていることについて触れ、学校でも教員の方々が教員の使命を自覚し、職場の教員同士で共有し、それを生徒・保護者にも伝えることが、生徒の社会人としての基礎を培い人格の形成につながるのではないかと話をされました。

就労に向けて生徒が「前向きになる仕掛け」としては、「人の役に立つ行動をとる・感謝されるという二者間のやり取りに、第三者が客観的に褒める・認めることにより、喜びの幅がひろがる」ということを実感できるシナリオをつくるのが大事であると那波様は話され、「自分のできた・努力したことが、人の役に立つ・貢献できる、人から感謝される、ありがたくなる。これをつながるようにしておくことが成長につながりやすいことになる。これは社員教育だけではなくビジネスにおいても同じです」と職場でのご経験をもとに具体的に説明されました。

日時：令和4年8月1日（金）

開催方法：ZOOM

参加者：合計13名

（中学校1名、特別支援学校12名）



↑株式会社つくし更生会  
専務取締役 那波 和夫 様

#### ～ 講演内容 ～

#### 「生徒の就労意欲を高めるためには？」

1. つくし更生会の事業概要、特徴
2. 伝える、伝わる、納得、理解、共有  
仕組み、実際に行っているやりとり事例

後半では、参加者からの質問にお答えいただきました。その一部をご紹介します。

### ◆質問 組織・集団として心理的安全性を確保することについてお話をお聞きしたい。

(那波様) 例えば何か問題があったとき、原因とそこに至った思考と行動を整理し、本人がどうすればよかったのかを納得し、次につなげていく。そのことによって、話し合いをすれば自分にとってよかったという安心感につながる。そこに否定や怒るという行動は必要ありません。障がい名も出てきません。本人は否定や怒られた経験を忘れ、安心して働くことができます。またその際、本人だけではなく周囲の人間も「よかった」を共有し、他の人との関係性にまでつなげるようにします。このような組織の雰囲気や風土になるように仕組みを作っていくことが大事です。

### ～ 参加者からの感想の一部をご紹介します ～

- ・すべての子供たちの可能性を見出すには、どうやって引き出すかを意識することが大切だということ、そのためには話を続ける中で本人の気持ちを整理することが大切だということが分かりました。  
(特別支援学校)
- ・相手が理解できる言葉で伝えること。当たり前のように大変難しいことだと思います。ここをしっかりと確認しないと、伝えた気である支援者と何もわからないけどその場をやり過ごす生徒、という関係で終わり、相手を理解することも出来ないと思いました。コミュニケーションができないのは、生徒ではなく教師側にあると感じました。これでは、やる気を引き出すことに繋がらないと思いました。  
(特別支援学校)



## 保護者 セミナー

株式会社平栄 障がい者しごと支援センター木の实

## 就労に向けて 「働くためにたいせつなこと」

本セミナーでは、就労移行支援事業所や就労継続支援B型事業所などの運営を行い、障がいのある方の就労支援を行っている株式会社平栄 障がい者しごと支援センター木の实 副施設長 富永 祐一 様を講師としてお迎えし、就労に向けた家庭における支援についてお話いただきました。

### ◆就労移行支援事業所「木の实」の取り組み

就労移行支援事業所では制度上、基本2年間で就労に向けて訓練を行います。木の实ではまず、コミュニケーションに関する支援と各種講座の実施というところで、働く上で困りそうなコミュニケーションの場面を想定し、ロールプレイやアサーション(コミュニケーションの技術)を活用して対人関係の支援を行っているそうです。またお仕事(施設での訓練)や職場での体験実習を通して、集中力や忍耐力、作業遂行能力、体力の向上など作業に取り組む力の向上も図っているそうです。そして、訓練を経て就労された方には少しでも長く働くことができるよう就労定着支援を行っているとのことでした。

日時：令和5年3月8日～22日  
開催方法：動画配信  
(YouTube 限定配信)  
申し込み者数：合計 337 名



障がい者しごと支援センター木の实 副施設長 富永祐一 様

### 木の实就労移行支援事業の取り組み

標準利用期間2年間の訓練を通して一般企業への就職を目指して支援しています

- ・コミュニケーションに関する支援、各種講座の実施  
(ロールプレイやアサーションを活用した対人関係の支援)
- ・作業に取り組む力の向上  
(作業を通じた集中力、忍耐力、作業遂行能力、体力の向上)
- ・職場体験等を通じた実践、就労支援
- ・就労後のお仕事の定着を目的とした就労定着支援



## ◆就労支援を行う中で出てくる様々な課題・・・一番難しい課題は「遅刻・欠勤」

富永様は「就労移行支援事業所での訓練の中で、挨拶や返事ができない、集中力が続かない、体力がない、できる作業が多くない、スピードが上がらないなど様々な課題が出てきます。ただこれらの課題のために就職が著しく難しくなることはありません。しかし、遅れることが続く、休みがちになるという遅刻・欠勤は就労することが難しくなりますし、また遅刻・欠勤に対してアプローチをし改善していくことは、就労支援の中でも一番難しいと私は感じています。特に体調が悪い時に受診が必要な体調の悪さなのか、それとも気持ち的なところで行きたくないものなのかの体調の判断が難しいです。」と遅刻・欠勤に対する支援の難しさについて話をされました。

就労移行支援事業所の訓練では、様々な課題を把握し企業に伝えたり、その方の持っている力を把握して、それを仕事でマッチングできるかどうかというところを調整します。富永様は、「遅刻や欠勤が続くと、安定的にその方の力や課題の評価ができず、仕事のマッチングが難しくなるなど、就労すること自体が難しくなったり、就労してもそのことが課題となり退職に至るケースが多くなります。」と遅刻・欠勤に対する取組みの重要性について話をされました。

### 就労支援の中で就職先で褒められること

就職先を訪問し、多くの企業の方から、よく頂く誉め言葉は、

・とにかく休まず頑張ってくれています。遅刻もないし、安心して仕事を任せられますよ。

毎日来てくれる。安心して仕事を任せられる。

これは職種、仕事内容、作業能力問わず言われます。



## ◆遅刻しない、欠勤しない生活習慣

富永様は木の実での遅刻・欠勤の主な理由は、スマホゲームやYouTubeを見て寝るのが遅くなるなどがあり、遅刻・欠勤をしないためには、寝る時間や起きる時間をなるべく一定にする、目覚ましを使用して自分で起きる習慣を身につけるなど、生活の中で繰り返していくことで獲得していく生活習慣が大切であり、障がいに合わせてサポートが必要な部分を見極めながら、生活の中で、なるべく早くから自分ができることは自分でする生活習慣を身につけておくことが大事であると話をされました。

## ◆企業が求める働く力

富永様は、企業は、ビジネスマナーや仕事のルール、決まりごとを守るなどの社会人の基礎として身につけておくべきことができていることをまず求めている、そのベースの上に、仕事の知識とか作業のスキルを少しずつ覚えていくということが求められる力であると話をされました。また、経済産業省で新社会人基礎力が定義づけられ、その中に「前に踏み出す力」というものがあり、ご家族の方には、本人が頑張れそうならば失敗しても一歩前に踏み出すということへのサポートをしていただき、本人がその一歩を踏み出すことができれば、不安の解消や、失敗を少なくする支援を私たち就労移行支援などがサポートしていきたいと話をされました。

規則正しい生活習慣を身につけ  
まずは一歩前に踏み出す

そこに支援やサポートが加わり

就職し、働き続ける

## ◆ご家庭や学校での支援・就労移行支援事業所との連携

富永様は「ご家庭や学校には、手を差し伸べない支援が一番の支援につながるとお伝えしています。実体験の中で本人が困ったということになれば、解決しないといけないという次のステップに進みます。またご家庭や学校という社会には、その中にルールがありますので、そのルールを守れるようにしていく。それも生活習慣につながってきます。そして、そのルールが守れるか守れないかをご家庭で客観的に評価し、自分でやるにはどういう支援が必要か見極め、学校や支援機関につないで協力して本人をサポートしていく形が一番いいと思います。そのために大切なのが、ご家族の方のゆとりです。自立への支援は我慢や忍耐が必要ですので、家庭でできることと、支援やサポートが必要というところを整理して、サービスを活用していただくことも大事であると思います。そのために様々な法律や制度、福祉サービスなどの社会資源がありますので、そこを少しずつでも早めに知っていただき、つなげていくことが大事ではないかと思えます。」とお話をされ、講演を締めくくられました。



～ 参加者からの感想の一部をご紹介します ～

- ・我が子も、動作がゆっくりペースなところがあるので、就労できるのだろうか、心配になることもありますが、今回のセミナーを聞いて、まずは、社会のルールをしっかり守り、挨拶だったり、遅刻・欠席がないことが、大事だとわかり、就労まであと一年なので、子どもに伝え教えていこうと思いました。  
(保護者 特別支援学校・高等部)
- ・生活習慣を整える、身辺自立の大切さがよくわかりました。本人の心身の健康、支える家族も心にゆとりを持って接することが出来るように色々な支援を利用しながら過ごしていければと思います。  
(保護者 特別支援学校・小学部)

# お知らせ 令和5年度 夢ふくおかネットワーク 総会・講演会

参加費  
無料

第1部 総会 (14:00～14:35)  
令和4年度活動報告・令和5年度事業計画(案)

講師紹介

第2部 講演会 (14:45～16:00)  
「JR九州パレットワーク株式会社が進める  
障がい者雇用の取り組み」



JR九州パレットワーク株式会社

取締役 企画部長  
久富 勝之 氏

日時 令和5年 6月30日 (金)  
14:00～16:00 (受付 13:30～)

場所 福岡市立 早良市民センター 4階ホール  
福岡市早良区百道 2-2-1

定員

対象 障がい者雇用に関心のある方  
保護者・教員・支援機関・当事者など

200名 (申込先着順)

申し込み 「入力フォーム」または「FAX」でお申し込みください。

■ 「入力フォーム」



申し込み締め切り  
6月27日

■ 「FAX」でのお申し込み (発達教育センターホームページよりダウンロードできます)

福岡市教育委員会 発達教育センター

福岡市中央区地行浜 2丁目 1-6

TEL 092-845-0015 FAX 092-845-0025

E-mail yume\_network@city.fukuoka.lg.jp

HP <http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/>

「夢だより」についてのご感想、ご意見などをお寄せください。  
※左記参照

